

厚生省科学研究費補助金（厚生省こども家庭総合研究事業）  
分担研究報告書

小児難治性腎尿路疾患の病因・病態の解明，早期発見，管理・治療に関する研究  
慢性腎不全のデータベース

分担研究者 本田雅敬 都立清瀬小児病院腎内科 小児科部長

研究要旨 小児腎不全のデータベース構築のためのアンケート項目，調査方法を小児腎臓病学会の協力の元に確立した．小児 PD 研究会の登録データから PD の実態を調査し，807 例について原病，透析期間，予後，死因，中止理由，生存率，継続率を検討した．小児の硬化性腹膜炎について調査し，長期 PD の危険性について結論を出した．小児の腹膜平衡試験の方法を確立した．

#### A. 研究目的

小児腎不全のデータベースは 1986 年に小児腎不全研究会でまとめられた後は全くなき，日本透析医学会のデータがあるのみであるが，これは全く全国の小児を把握したデータとは言えない．一方小児 PD 研究会が 1987 年以来全国の腹膜透析患者の登録データを蓄積し，このデータは透析医学会の報告から考えると全国の腎不全患者の 60-80% を占める．そこで今回小児のデータベースの確立を目指す事，既にある小児 PD 研究会のデータを分析する事，本邦の腎不全小児の中心的役割を示す小児腹膜透析患者の長期の問題点を分析する事の 3 点について検討した．

#### B. 研究方法

##### 1. 小児腎不全のデータベースの確立

小児腎臓病学会と協力し，データベース確立の方法，アンケート調査項目を作成し，次年度以降に継続してアンケート調査を行う．

2. 小児 PD 研究会の 97 年末のデータを解析し，腹膜透析（PD）患者の実態，合併症，生存率，継続率などの解析

3. 小児 PD 患者の長期予後を阻害する因子としての硬化性被嚢性腹膜炎の解析，また早期発見のための腹膜平衡試験の方法の検討．

#### C. 研究結果及び D. 考察

##### 1. 小児腎不全患者の患者登録データベース

今年度は小児腎臓病学会の学術委員を中心にデータベースのためのアンケート調査項目を全学術委員に意見を聞いた上で確立した．

1 次調査：現在の 20 歳未満の患者数，今年度導入患者数．

2 次調査：年齢，性別，原病，透析法，移植の有無，治療法変更の有無，死亡の有無，死因．

既にデータベースを持っている透析医学会，小児 PD 研究会からアンケートの郵送先を入手した．

#### アンケート項目

本邦における慢性維持透析患児の現況についての調査（案）

調査対象は平成 10 年 1 月 1 日から平成 10 年 1 月 31 日までの 1 年間に慢性維持透析療法を受けている 20 才未満の患児。

記入機関：

記入者名：

調査事項

I. 氏名（例 熊〇太〇）：

II. 生年月日：（昭和・平成）

III. 性別：1. 女 2. 男

IV. 透析治療導入となった原疾患（13 或いは 14 で異形成腎の時には 11 に入れて下さい）

1. IgA 腎炎 2. 膜性増殖性腎 3. 膜性腎症 4. 巣状

分節性糸球体硬化症 5. 急速進行性腎炎 6. アルポート症候群 7. 先天性ネフローゼ症候群 8. 溶血性尿毒症症候群 9. SLE 10. 異或あるいは低形成腎 11. 先天性ネフロン癆 12. 逆流性腎症 13. 閉塞性尿路奇形 14. その他 その他の場合は原病を記載

V. 透析開始年月：（昭和・平成）

VI. 透析開始年齢： 才

VII. 平成 10 年 1 月 1 日以前から透析施行している患児の平成 10 年 1 月 1 日での透析方法

1. 血液透析 2. 腹膜透析 3. 腎移植

VIII. 平成 9 年 1 月 1 日から平成 9 年 1 月 31 日までの 1 年間に新規透析導入となった患児の透析導入方法

1. 血液透析 2. 腹膜透析 3. 腎移植

IX. 調査期間内での患児の状況

1. 死亡

1) 死亡時での透析方法

(1) 血液透析 (2) 腹膜透析

2) 死因：